

町田市議会議員 議会報告

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



携帯QRコード
でブログ閲覧



情報収集・提供する

研修レポート③小林 加苗

今回のインターンシップでは、町田市の自由民権資料館を訪ねました。自由民権運動というのは、明治前半に人民の権利や自由の拡大を目指して、藩閥政治に対抗して政治に参加しようとした活動です。自由民権運動の活動をした最も有名な人物として板垣退助が挙げられます。私自身、正直歴史は得意ではありませんが、過去の偉人や日本または世界を変えた人物には興味がありました。今回は町田市という場所にゆかりのある自由民権家について勉強する機会を設けていただいたのです。前回のレポートにも記載したのですが、私は埼玉の人間なので大変貴重な機会でした。(以下、中略)



(白百合女子大3年生 小林 香苗(第38期))

今回は資料館の方に一つ一つ丁寧に解説をしていただいたので、歴史が苦手な私も楽しく学ぶことが出来ました。

また、これを機に私の地元では当時どのような活動をしていたのかも知りたくなりました。もしこのような資料館があれば足を運びたいと思います。

研修レポート③吉成 美樹

今回はSHINDO(服飾用リボンの世界トップ級のメーカー)の東京ショールームと、アイ・エム・ユー(TVショッピング分野)と言うファッション系の本社を2箇所訪問させていただき、自分はファッションに興味があるのでとても興味深いインターンシップになりました。それぞれ、責任者の方や、社長さんにお話をお聞きすることができました。

ファッションの中でも表に見えているファッションブランドの企業ばかりではなく、その製品を作るためにSHINDOのような素材メーカーの企業が世界のトップブランドにも使われているほどに関わっているのだと感じました。また、自分達の世代にはなじみが無い、TVショッピング形式の通販マーケットが膨大にあることも知りました。

今回のインターンシップを終えて、他にもどのような企業がファッションブランドを支えているものであるのか興味が増えました。次回も頑張りたいと思います!

*ファッションは重要な産業です(吉田)



明治学院大学2年生 吉成 美樹(第38期)

★吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、町田市役所のインターンシップ受け入れや、中学生の職場体験に先行

★大学生・院生を対象に、議員活動に同行することを通じて社会勉強を支援しています。

インターン希望の方、関心がある方は、ホームページの掲載要旨をご覧の上、ご連絡ください。

町田市議会議員・納税者主権

吉田つとむ

良識ある保守主義を目指す

町田市議会

〒194-8520
東京都町田市
森野2-2-22
TEL.042-724-2171

保守連合会派室



会派所属議員で視察

保育園の待機児ゼロは可能か

国も地方も待機児童ゼロを、その政策スローガンの主要項目に入れていいます。議員も、皆さんから「保育園に入れない」という声を聴きます。他方で、施設に供給過剰が生じているという関係者の声もあります。むしろ、最大の問題は、都市部では低収入が原因で保育士不足が発生するという現実です。

町田市での実際の施設の需給でいうと、保育園は確実に増えているが、その後需要が増加したことで待機児童が減少しないという事態が続いています。要は、ゼロ歳児～1歳児クラスの保育をどのようなあり方で対処すべきかと言う問題でしょう。現実にはそれ以降の幼児は施設において決して不足とさえ言えず、ましてや教育的な施設として多数の幼稚園も存在しています。

国が子育て世代の就労の拡大を求め続けることに無理があり、むしろ、所得補償で子育てを考える方がより良くなるという見方が地方議会では芽生えています。私は多数が保育施設に預ける時代に、公設認可の施設が低料金で高いサービスを提供し、逆に、認証・無認可の施設が高料金でサービスが低い内容を提供する事態の改善こそが課題だと思っています。



高い人気を持つ民間保育園を見学訪問

高齢者の就労機会状況

今期の補正予算で、「アクティブシニア介護人材バンク事業」という制度の新設事業(予算額1千万円)がありました。東京都が全額を支出する(3年間)制度ですが、50歳代以上(上限は無い)の人が一定の講習を受け、登録をした上で、介護の現場で新たに働くことで慢性的な就労者不足を補おうという仕組みです。東京都は、期間を過ぎると予算を無くす可能性もあり、事後その任を基礎自治体(町田市)が負わされる懸念もありますが、今日的な課題であることは間違いありません。人が60歳台を越しても就労する状況は当たり前になってきており、このことは、ある意味、以前には3Kと呼ばれた職務に高齢者が多数就業し、雇用者不足を補うことを下支えする事態が生じているとの構造ができつつあることを示しています。



英国人研究者に日本の政治状況を説明

この制度の趣旨は高齢者が元気な体を保ち、長く就労する体制の一端の保証をしようというものです。今後、この考えや取り組みが他にも増大すれば、少数の若者が多数の高齢者の生活を支えるという少子高齢化時代の若者の不安を取り除き、高齢者が就労による収入が長期間見込まれるという時代を迎える予感がしてきました。

★マルチメディア双方向発信 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> ユーチューブ <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

編集者 〒194-0011 町田市成瀬が丘1-14-12サンホワイトE103-13吉田つとむ(自宅)

町田市議会議員・納税者主権

町田市議会

〒194-8520
東京都町田市
森野2-2-22
TEL.042-724-2171

保守連合会派室

吉田つとむ

良識ある保守主義を目指す



双方向の情報交流

町田市議会議員 議会報告

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



携帯QRコード
でブログ閲覧



市議会の見学・傍聴

リニア新幹線と町田市

今後の町田市、およびその周辺における、鉄道路線の新設、延長で一番先に開通するのが、リニア中央新幹線です。路線は品川駅～名古屋間ですが、JR東海が単独で2027年に開通するよう計画し、実際にその工事を着々と進めています。さらに国は、その建設に「財投」資金を使うように誘導し、さらに先の大阪までの区間延長に関する支援の方針を示しました。

その新駅が相模原市緑区橋本に地下駅として造られますが、私の提案は町田市もその新駅ターミナル建設に参画して、必要な費用負担をするべきだということです。例えば、小田急多摩線延伸の共同調査においては、相模原市と町田市は費用折半として、毎年約1000万円の支出を行っています。私は、今回の一般質問で「橋本」のリニア中央新幹線駅ターミナルを町田市が相模原市と一緒に建設し、その運営を行うための共同研究を持ちかけましたが、町田市は利益教授のみを求めるのみでした。資金を出さないうで、相模原市から有効な利益を受け取ると思えません。私は、町田市はこの2027年に起きるリニア時代に取り残される懸念を強めました。



一般質問を二人のインターン生が傍聴

歴史・文化を継承する地域

町田市は5つの自治体が合併してできた都市です。厳密には、一度、旧南村が町田町と合併し、次いで、その町田町と鶴川村、忠生村、堺村が一緒になって、町田市ができています。市政施行は昭和33年(1958年)となっており、私が町田市に移転してきたのは昭和61年(1986年)です。



中心市街地の発展計画が停滞気味の一方、東急田園都市線が走る南町田駅周辺では町田市と東急が共同して公園とショッピングモールが一体化したエリアを推進しています。その一方、自然林として森が形成されてきた鶴間公園は明るい景観を呈するために大幅な間引きされた立木のエリアに一変する可能性があります。地元やシンポジウムで議論がなされていますが、行政の最後の手法は「専門家」の見解を持って新施策が打ち出される可能性があります。私は、南地区では数少ない森の樹木を保全すること、旧来ののり面(斜面になった部分)に市の施設を造るのであれば、木造の建物とした上で、旧「南村」を含む歴史伝承の文化を使える空間が必要だと議会で発言しています。

研修レポート⑤御子柴 綾乃

今回は町田市民病院に伺い、栄養科で「科」の仕事や病院の食事についてお話していただきました。町田市民病院の栄養科では主に患者様の栄養管理を行っています。又、食育にも力を入れており、作成したポスターの掲示や病院の季刊誌にレシピの掲載を行っています。患者様への栄養指導も行っており、特に糖尿病や循環器系の入院患者様には必ず減塩の指導を行うそうで、栄養指導が盛んな印象を受けました。



共立女子大学3年生 御子柴 綾乃(第38期)

又、印象的だったのが嚥下機能についてのお話です。嚥下とは物や水を飲み込む事で、加齢によって嚥下機能が低下してくると食べ物や飲み物が気管や肺に入ってしまう事があります。これを誤嚥と言ひ、肺炎の原因になる事もあります。これは管理栄養士を目指していれば習う事なので、私はある意味当たり前の事と考えていました。(中略)

今回も、勉強しているだけではわからない事をたくさん教えていただきました。特に、管理栄養士は食を通じて「人と関わる」職であるという事を強く感じました。学んだ事を胸に刻み、今後も学びを深めたいと思います。

研修記録⑤武者小路麻理



職員にも挨拶

昭和女子大学3年 武者小路麻理(第38期)

横浜市会議員の山下正人さん(青葉区選出)が、町田市にお越しくださいました。町田市環境資源部の方々も交え、家庭ごみ等の費用負担のあり方について話し合いました。ごみの有料化が実施された当時のことを中心に、発生した問題やこれからの課題などの詳細な質疑応答が行われました。町田市の中でも限定的に始まっているプラスチックごみの分別収集の話が出た時は、その対象となっている地域に自分も住んでいるので拝聴に熱が入りました。

ごみの有料化によって町田市の総ごみ量は減少の一途をたどっていますが、ごみに関する問題は解決されていません。その一つが分別の不徹底です。ごみの減量化・リサイクルを目指した有料化ですが、可燃ごみへの紙ごみの混入が目立つそうです。これは、市民である自分の目線から見ると、そうした混入への指導が不十分であることや、そもそも市民がごみの減量に対して強く意識しているとは言い難い現状が原因なのではないかと感じました。ごみ問題に関しては、地域同士で連帯するべきだという意見も聞きましたが、過剰包装が指摘されていることから、優先順位を下げ市町村任せにするのではなく、国が積極的に働きかけるべきだと思います。

★マルチメディア双方向発信 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> ユーチューブ <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

編集者 〒194-0011 町田市成瀬が丘1-14-12サンホワイトE103-13吉田つとむ(自宅)

掲載記事、市政のご関心事は、下記のFAXかもしくはメールまでご送信先ください。

★吉田つとむの連絡先 TEL 042-795-7361 FAX 042-795-2726

Mail : yoshidaben@gmail.com mobile専用 : yoshidaben@docomo.ne.jp(携帯のみ接続)